

# らいてうの家

通信 42 号

2017.1.1.

…平和・協同・自然のひろば…

らいてうの家 〒386-2201 長野県上田市真田町 長十の原 1278 ☎fax : 0268-74-1385

NPO 平塚らいてうの会 〒112-0002 東京都文京区小石川 5-10-20 5F ☎fax : 03-3818-8626

あけましておめでとうございます。

今年も 明るく楽しい らいてうの家運営をしていきたいと  
願っております。お友達を誘ってどうかお出かけください

2016年9月17日 らいてう講座  
紫式部からのメッセージXII 報告

最終章 浮舟

～自分を生きた 最後のヒロイン～

語り手 宮島満里子さん ……を聞いて

45帖に渡る光源氏の生涯が終り、宇治の山荘や小野の里が舞台になる。ここに『宇治十帖』が誕生した。前編は朧筆におわり、あからさまには書けなかった。しかしこのままで終わらせることはできない、抱いてきた式部の意思で後編が生まれた。『宇治十帖』は、おぼろでは書くまいということ、登場人物も少人数に絞った。『宇治十帖』はまるで異質な物語であるといわれる。八の宮は俗聖と言われ、薫の君は仏道修行を目指す好青年と言われている。匂の宮は源氏に最もよく似た性情の持ち主。大君は父の遺言を守り、結婚拒否の意思を貫き通し、悲しみと苦しみのまま命を閉じる。これこそ式部の内心の現われであり、宇治十帖を支配している思想なのだと思う。中の君は薫から逃れるため異母妹『浮舟』を紹介する。最後、浮舟は苦悩の末、尼になって世を捨て、その命を続けていく。6人の絡み合いを紐解いていくと、実に複雑で深い。浮舟が死の淵からよみがえり、生きる力を得たエネルギーは何だったのか。仏道への帰依と母への限りない思慕こそ、再び世を捨てて完成させた生き方だったか。ジェンダーの視点から源氏を読み直して12年、『いずれの御時にか』で始まるこの物語は何とない疑問形で締め括り、男女の愛は幻のようなもの、求めても浮橋の(憂い)のようにはかないものとしか位置付かなかった。式部の内心に込められた途方もない思いを現代の私達は、永遠の課題として、これからも探って行かなければならない。式部からのメッセージはもっと深いものであろう。これからもそれを読み取っていききたい。 <完>

とても90歳を超えたお声とは思えない明るくはきはきした口調で語られる講師の熱のこもったお話に夢中になりました。11年の長きにわたり有難う御座いました。今後も新しい企画を是非お願いします。

沓掛美知子



# 「太陽光発電設備」設置問題—白紙撤回に向けて

NPO平塚らいてうの会

会長 米田佐代子

地域のみんなが「反対」

昨年8月、降ってわいた「らいてうの家」真ん前の「太陽光発電設備」計画に対しては、らいてうの会はもちろん、看板の直前にお住まいの方や別荘自治会もふくめて「反対」の声をあげ、地元の大日向自治会も住民のみなさんが話し合っ「反対」で一致、更に四阿山に奥社がある山家神社も「あそこは神社の参詣路」と強く反対の意思表示をされ、12月26日には一同こぞって県と市に対し「反対」の意思表示をしました。一方長野県議会は、12月2日に、太陽光発電設備建設により「各地で地域住民と事業者とのトラブルが多数発生している」ことをとりあげ、国に対し「太陽光発電施設建設に係る法整備等を求める意見書」を出すことを、全会一致で可決しました。また上田市では12月市議会で、建設部長から太陽光発電の「事業者向けガイドライン(指針)」を作成する方針が示されました。重要な動きです。県議会の「全会一致」決議を尊重し、すべての政党政派の方々にも訴えて市と県への働きかけ、更に国(環境省)への働きかけを強めて行きたいと思ひます。



「環境アセス」をするという通告と「着工延期」

こうした動きのなかで事業主であるHJアセットマネジメント社は11月、当初計画にはなかった「環境アセスメント」を「簡易アセス」として行うと通告してきました。調査結果が出るのは4月以降になるので、当初計画の「4月着工」は延期されることになりました。私たちは、事業者がアセスを「お墨付き」にして許可申請を出すのではないかと懸念しています。アセス担当の「NPO地域づくり工房」では「アセスのやり方についても関係者の意見を求める」と言っていますが、これが「着工」を前提にした調査ならば賛成できません。わたしたちは、あくまでも計画の白紙撤回を求める立場です。この点については事業者にも「地域づくり工房」にも、私たちが求めているのは「計画の手直しではない」ことを伝える方針です。

みんなが「安らぎ、交流する」ひろばをつくるためにわたしたちは、この地を地域の方がたとともに「みんなが安らぎ、語り合い、交流する」ひろばにしたいと、さまざまな活動に取り組んできました。あずまや高原にはそれができる「自然の力」があります。住民や行政、事業者もともに協力してその方向をめざすべきです。これから署名活動、県や市への働きかけなどを通じて、世論に訴えたいと思ひます。ぜひ皆様の力をお貸しください。

